

世界の話題

ドイツ

ここ数年、8月のドイツは湖畔のロックやクラシックコンサート、街の広場、博物館や美術館などを利用したコンサートの選択肢が広がっている。3年前のリーマン・ショック後、夏休みをドイツ国内で過ごす人が増えていることも背景にあるのだろう。

ミュンヘン市では年間2千件にわたるコンサートやイベントに補助金が出されており、ほとんどが夏に集中している。その数も10年前に比べ、4倍だそう。旧オリンピック会場では入場無料の音楽祭が開かれるほか、バイエルン州議会は夏の閉会期を利用し、広間で音楽と食事を組み合わせたオペラのダイナーショーを催している。普段は使われていない城や広場をイベント会場にするケースも増えているが、選択肢が多すぎるせいか、人集めに苦労しているところも多い。

一方、海がないミュンヘンで若者に人気なのは、バカンス気分が

街中に「ビーチ」 夏休みは近場で



楽しめる街中の「ビーチバー」。地面をビーチのように砂で敷き詰め、パラソルをかざして南国の感覚にひたりながらカクテルを飲み、おしゃべりに興ずるというもの。バンドの演奏を楽しめるビーチバーも少なくない。

ただし、夏が短いドイツで、今年の8月も気温20度以下の曇りの肌寒い日が続き、天候までは南国とはいかない。突然、雨天に見舞われることを考えて、雨具や重ね着ができる上着の用意は欠かせない。
(福田 直子)